

「勝手にくま鉄検定」第5セット目 に挑戦しましょう！

- 1 くま川鉄道の隣り合う駅間の運賃は、肥後西村駅と一武駅間を除いてどの駅で乗ってもすぐ隣の駅までの運賃は同額です。大人運賃はいくらですか。
① 170円 ② 190円 ③ 210円 ④ 230円
- 2 くま川鉄道の駅のうち、ホーム側の壁にモモやナシ、メロンなどの果物の絵がタイル張りで描かれているのは、何駅ですか。
① 川村駅 ② 肥後西村駅 ③ 一武駅 ④ 木上駅
- 3 この駅のホームからは、30m程の垂直な崖に横穴が掘り込まれた動物・武具・幾何学模様などの装飾が施された横穴式古墳を見ることができます。この駅は何駅ですか。
① 人吉温泉駅 ② 川村駅 ③ 東多良木駅 ④ 新鶴羽駅
- 4 くま川鉄道の時刻表には列車番号が載っています。現在の運行ダイヤで、列車番号1Dの始発駅と時刻の組合せとして、正しいものは次のどれですか。
① 人吉温泉駅・5時39分 ② 人吉温泉駅・6時19分
③ 湯前駅・6時29分 ④ 湯前駅・7時30分
- 5 湯前駅の南側のホームは【 】と呼ばれる総ヒノキ造りの多目的広場となっています。【 】に入る言葉は何ですか。
① 北ウィング ② レールウィング
③ ゴールドウィング ④ ウィングロード
- 6 新鶴羽駅から車で3分のところにある球磨川沿いの【 】公園には、「【 】溝取入口旧樋門」が移築復元され、利水事業に関わる貴重な文化遺産として町指定の文化財となっています。
文中の【 】に共通して入る言葉は何ですか。
① 十太郎 ② 百太郎 ③ 千太郎 ④ 万太郎
- 7 おかどめ幸福駅は日本で唯一「幸福」の名前が付く駅です。この駅名の由来となった、近くに所在する神社の名称は何といいますか。
① 岡留猿野座神社 ② 岡留鹿野座神社
③ 岡留猪野座神社 ④ 岡留熊野座神社

8 くま川鉄道は、14駅、24.8kmの中に全部で19の登録有形文化財を保有しています。一般的に、この登録を受けるためには、築後最低何年経過していることが条件になっていますか。

①25年 ②50年 ③75年 ④100年

9 田園シンフォニーが5両全部揃ったことから、2015年（平成27年）1月15日に全車両を連結して臨時運行をしたことがあります。このときの旅客は、どのような扱いでしたか。

①関係者のみ ②招待客のみ ③通常通り（乗車券を購入して乗れた）
④一般公募で抽選して当選した者のみ

10 2018年（平成30年）7月22日の西日本新聞（朝刊）に、くま川鉄道の現状について、「平日朝の列車乗車率が、何と130%」で始まる記事が掲載されたことがあります。この記事の中で、都会並みの大混雑になっている原因として、どのような分析がなされていましたか。

①人吉球磨に所在する高校を通り越して、八代方面の高校に通学する生徒が増えた。
②沿線の南稜高校が文部科学省指定事業（SPH）を受けたことなどで人気が高まった結果、人吉方面から通学する生徒が急増した。
③沿線の多良木高が2019年（平成31年）3月に閉校することが決まり、生徒募集をやめた結果、地元に進学先がなくなった多良木町や湯前町などから人吉市方面に通学する生徒が増えた。
④沿線の高校が一斉に早朝課外を始めた為、これまで分散していた通学生が同じ列車に乗車せざるをえなくなった。

いかがでしたか？

それでは、「勝手にくま鉄検定」第5セット目の正解と解説です。

1 ②190円

くま川鉄道のホームページから運賃に関する規定を調べてみました。次のようにあります。

3キロメートルまで・・・190円、3キロメートルを超え7キロメートルまでの部分・・・2キロメートルまでを増す毎に30円を加算、（以下略）

当たり前のことですが、くま川鉄道でも隣り合う駅間の距離はバラバラです。例えば、駅間距離が一番短い区間（東免田駅～公立病院前駅）で、1.1

km、一番長い区間（肥後西村駅～一武駅）は、3.4 kmで3倍以上違います。この肥後西村駅と一武駅間（220円）を除き、他の隣り合う駅間は全て3キロ未満ですから190円で同額になります。

なお、この値段（190円）は、2019年（令和元年）10月1日の消費税率改定の前後で、変更はありませんでした。

2 ②肥後西村駅

肥後西村駅がある球磨郡錦町は、桃や梨の生産が盛んな町です。ということで、地域の名産がそのまま写真のように、壁面に描かれているものと思われます。



3 ①人吉温泉駅

人吉温泉駅北側の正面にある大村横穴古墳は、6世紀から7世紀の古墳時代に造られた墓とされ、27基が確認されています。



早くから学界でも注目され、1921年（大正10年）に国の史跡に指定されました。

1500年前も前に古代人が闊歩していた所に現在、駅があり、そのホームに立っていることを考えると、何とも不思議な感じがしますよね。

4 ①人吉温泉駅・5時39分

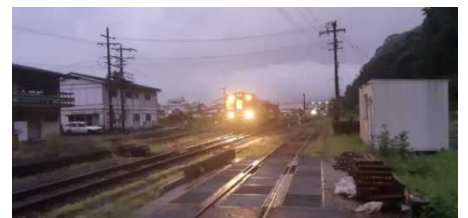
くま川鉄道では、人吉温泉駅→湯前駅を「下り」と称し、列車番号は出発時刻が早いほうから1D→3D→5D→…のように奇数の番号が割り振られています。（Dはディーゼル[Diesel]列車のDと思われます）

反対に湯前駅→人吉温泉駅は「上り」で、偶数の番号が割り振ってあります。人吉温泉駅発5時39分の1D列車が湯前駅に6時22分に到着して、その折り返しが2D列車として、湯前駅発6時29分の人吉温泉駅行きの列車になります。

ちなみに、湯前駅で夜間滞泊は行っておらず、同駅終着の最終列車（27D）は、折り返し人吉温泉行き最終列車（28D）となります。

写真は、朝靄をついて人吉駅を出発する1D（2019年8月20日撮影）です。

右横に小さく光っているのは、その40分後に出発する3Dで、既に暖機運転中です。



5 ②レールウイング



ウィング (wing) は、英語で鳥や飛行機などの翼の意味です。写真①のように、ホームが両側に広がっているからそのイメージで名付けられたものと思われます。ビアガーデンやいちご祭り、ぶどう祭りなど多彩な催しものが開催されています。

なお、①北ウィングは、歌手中森明菜さんの7枚目のシングルとして、1984年にリリースされた曲、③コールドウィングは、ホンダの1800ccを超える大型バイク、④ウィングロードは日産サニーをベースとしたステーションワゴン（現在製造中止）であり、いずれも湯前駅とは無関係です。

本設問とは関係ありませんが、写真①の奥に見えるアーチには、先端のカーブ付近にくま川鉄道のマスコットであるガマンチョ君（針金製）がとまっています（写真②）。



6 ②百太郎

この百太郎公園は、球磨郡多良木町、あさぎり町、錦町の1,500ヘクタールの水田に水を供給する全長19キロの灌漑水路「百太郎溝（ひゃくたろうみぞ）」の取水口付近に整備された公園です。公園内には、鎌倉時代に作られたと思われる旧樋門（ひもん）が移築復元（写真①）されています。写真②は、百太郎公園のすぐ脇を流れる球磨川です。

この百太郎溝、くま川鉄道では東多良木駅と新鶴羽駅の間で跨ぎ、写真③は、その様子を車窓から撮影したものです。この灌漑用水路は、一説には1710年（宝永7年）に完成したとされています。百太郎溝という名称の由来にはいくつか伝説がありますが、この溝を作るときに、その完成を祈って生きた人を地中にうずめる人柱として犠牲になったのが「百太郎」だったことから、感謝の意を込めて百太郎溝と名付けられたともいわれています。

球磨地方には、幸野（こうの）溝と呼ばれる江戸時代に開削された古い灌漑用水路も現役で活躍中です。余裕があれば、そのルート等をくま川鉄道との位置関係をもとに調べてみましょう。



7 ④岡留熊野座神社

かつて、北海道にあった広尾線の愛国駅－幸福駅間の切符が「愛の国から幸福へ」として人気となり、縁起切符ブームの火付け役になりました。広尾線の廃線に伴い1987年（昭和62年）2月2日に幸福駅が廃駅となった後は、おかどめ幸福駅が日本で唯一「幸福」のつく現役の駅になります。

岡留熊野座神社（写真①は本殿、写真②は駅から見た神社入口に立つ鳥居）は、幸福をもたらすといういわれがあります。

なお、おかどめ幸福駅は無人駅ですが、隣に併設されている売店兼カフェ「黒豚キッチンクマクロ おかどめ幸福駅店」（KUMAKURO）（写真③）では、お土産、物産品、お弁当などが販売されている他、ランチも食べられます。（メニュー：写真④、料理一例：⑤）この「クマクロ」というお店の愛称も覚えておきたいところです。

売店の一番の売れ筋商品は、「幸福への切符」だそうで、くまモン、ハート型などが販売されています。（写真⑥）



8 ②50年

登録有形文化財は、1996年（平成8年）の文化財保護法改正により創設された文化財登録制度に基づき、文化財登録原簿に登録された有形文化財をさし、登録対象は当初、建造物に限られていましたが、2004年（平成

16年)の文化財保護法改正により建造物以外の有形文化財も登録対象となりました。

登録物件は、近代(明治以降)に建造・製作されたものが主ですが、江戸時代のものも登録対象になっています。築後50年以上がたち、歴史的景観や造形に優れ、再現が容易でないことが選考基準です。

物件が登録されると、維持管理費や補修費用等の補助、減税等が受けられる特典がありますが、大がかりな改築ができなくなる等のデメリット?もあるようです。

9 ①関係者のみ

当日の地元紙には、「『最初で最後』という5色の臨時列車は、関係者約90人を乗せて午前11時11分に人吉温泉駅を出発、湯前駅との区間を約2時間かけて往復した。5両編成で全長約92メートルとなった田園シンフォニーは、カラフルな車体で冬場の田園風景を彩った。鉄道ファンが集まり、運行風景を写真に収めた」とあります。

下の写真¹⁾は、その運行の様子を写した「1日乗り放題乗車券」です。これを見ると、当日の編成は、湯前側から「春・夏・秋・白秋・冬」の順で連結されていることが分かります。



10 ③沿線の多良木高が2019年(平成31年)3月に閉校することが決まり、生徒募集をやめた結果、地元に進学先がなくなった多良木町や湯前町などから人吉市方面に通学する生徒が増えた。

その記事を引用してご紹介します。

熊本県の高校再編に伴い、沿線の多良木高(多良木町)を19年に閉校することが決まり、生徒募集をやめた。結果、地元に進学先がなくなった同町や湯前町などから人吉市方面に通学する生徒が増え、朝の混雑が激しくなった。

同社は車両を5両しか保有しておらず、増便や増結は不可能。内部は観光列車仕様のため、座席が向かい合ったボックスシートやテーブルがしつらえてあり、通勤仕様より定員

が少ない。1両1億6千万～2億円の新車両を購入する経営体力もない。多良木高が閉校する来春以降は、さらに通学利用者が増え、混雑に拍車がかかるとみられている。

この記事の最後には「若い学生でにぎわう朝の通学ラッシュは、少子化に伴う高校統廃合の皮肉な活況だった」と結ばれていました。